

分科会番号	2 - ①
担当都県名	栃 木 県
学 校 名	宇都宮市立一条中学校
氏 名	青 木 孝 浩

第59回全国造形教育研究大会・第46回関東甲信越静地区造形教育研究大会発表資料

## 追体験 丑久保健一 「10∞のボール」



栃木県宇都宮市立一条中学校

青 木 孝 浩

## ◇ 授業のねらい

鑑賞を通して、作品制作に対する作者の思いを感じることができ、今後の鑑賞において積極的に鑑賞しようとする態度を育てる。 (関心・意欲・態度)

本物の作品に触れ、対話や追体験による活動をとおして、作者の心情にせまり、作品をより深く理解しながら自分なりの解釈や感想が持てるようになる。 (鑑賞の能力)

### 【より「ねらい」に近づけるための手立てとして・・・】

- ・本物の作品との出会い(出会わせ方の工夫) ・触察できる作品の選定
- ・追体験による深化 ・意外性のある作品の選定
- ・冒険活動センターなどの特別な空間での演出

## ◆ 授業の流れ

- 1 丑久保健一 「1000のボール」 鑑賞 <校内・1時間>
- 2 追体験によるボールの制作 <冒険活動センター・約4時間>
- 3 冒険活動センター敷地内にインスタレーション作品として展示・鑑賞
- 4 展示した作品の鑑賞会 <冒険活動センター>
- 5 制作した作品をランプシェードにして、光のピース鑑賞会 <冒険活動センター>

## ◇ 鑑賞① 丑久保健一 「1000のボール」 鑑賞 作品との出会いを大切にする

1. 白黒の写真を見せて投げかける。「これ、何に見える？」
2. 丑久保さんの作品であることを告げ、本物の作品を借りてきてあることを伝える。
3. 作品との対面。(アコーディオンカーテンを開ける。)
4. 対話や解説をしながら鑑賞を進める。  
全部で108個あるうちの31個であることを伝える。  
「海のピース」があることを伝え、地球儀で説明する。
5. 教室に戻って解釈や感想を書く。



## ◆ 追体験によるボールの制作

風船を膨らませたところに和紙を貼っていく方法で制作。限られた時間の中での制作なので、あらかじめ、簡単なアイデアスケッチはしてもらった。制作時間は約3時間。翌日までに乾燥させなければならなかったため、冷房のきく部屋で乾燥することに。

## 【 追体験ということで・・・ 】

丑久保さんがどんな思いで制作したのか・・・。

自分たちならどんな願いをこめて作るのか・・・。

互いの「思い」がつながることで、作者の意図に近づけるかもしれないよ、と呼びかけ

### ◇鑑賞② 追体験による 「ボール」 の鑑賞

本当は森の中に展示する予定だったがあいにくの雨。アリーナで展示

できたボールは思いのままに、

クラス単位で並べてみたり・・・、全員で並べてみたり・・・、自然光で見てもみたり・・・

### ◆分科会テーマとの関連 と 授業を終えて思うこと

「鑑賞」とは、それ自体が、自分を見いだす行為ではないだろうか。

作品を見ているはずが、自分を見ている。

作品と対話しているつもりが、自分と対話している。

その中で、自分の「よさ」や他人の「よさ」に気づき、

自分なりの作品解釈をつくりあげていく



#### 創造的な学習としての「鑑賞」

「私っていいな！」という「自己肯定感」の確立

生涯にわたって美術を愛好し、この国の文化を支える一員として成長してほしい、と思う。

#### 時間の経過による深化

その場で聞いたり書かせたりするだけでなく、

時には、時間を置くことで考えが整理でき、より研ぎ澄まされていくことがあるようです

対話による生徒同士の意見の共有 + 教師による知識の補充・知的好奇心の揺さぶり

この両者のバランスはとても大切だと思います。

生徒の視点を大切にしながら、より高い視点へと導き上げることが教師の支援。

### ◇反省と課題

- ・対話のときは、もう少し話をせずじっくり考える時間をとれるようにしたい。
- ・他の作品でも、十分な作品理解を教師がする必要がある。
- ・追体験の制作はもう少し時間が欲しかった。
- ・今後は、様々なやり方の鑑賞を工夫していきたい。鑑賞の対象も広げたい。